

日本金融学会金融経済研究主催コンファレンス

「長期停滞・低金利下の財政・金融政策：MMT は経済理論を救うか？」の開催について

皆様

益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、『金融経済研究』（日本金融学会の機関紙）では、最近、耳目を集める MMT (Modern Monetary Theory) をはじめとするマクロ経済政策に関する多様なアプローチをテーマに、特別号の刊行を視野に入れて一般から論文を募り、2020 年 1 月 31 日（金曜日）に慶応義塾大学（南館 4F 会議室）にてコンファレンスを開催することになりました。

ご存知の方も多いかと思いますが、MMT (Modern Monetary Theory) と呼ばれる新しい貨幣理論が関心を集めつつあり、旧来の新古典派マクロ経済学とは異なった論理で拡張的な財政政策を正当化しようとする動きがあります。「自国通貨を発行できる国は税收や国債残高に制約されることなく、インフレが生じない限りにおいて、自国通貨建て国債発行によっていくらかでも財政支出を拡大することができる。」というのがその理論的主張の骨子です。

リフレーション政策に対してかつてそうであったように、MMT が提唱する経済政策に対しても経済学者は無関心を装うことは決して許されることではないと思います。そこで MMT をはじめとする多様なアプローチを視野に入れたマクロ経済政策のコンファレンスを企画して、理論系、歴史系、新古典派アプローチ、あるいはそれ以外のアプローチを問わず、それぞれの議論に対する理解、批判、問題点を共有できる場を設けたいと考えております。

コンファレンスが対象とする領域は以下の通りです。

- MMT (Modern Monetary Theory) への理論的分析
- 銀行よりも政府の信用創造を重視する「信用創造廃止論」
- 長期停滞・低金利下の財政政策のあり方
- 財政当局と金融当局の望ましい関係（統合か独立か）
- 高橋財政などの歴史的経験から示唆を得ようとする研究

コンファレンスで発表を希望の方は、完成論文（あるいは A4 で 10 ページ程度の要約版）を 2019 年 12 月 31 日までに下記のコンファレンス代表 3 名にメールにて送ってください。論文は日本語・英語を問いません。また金融学会の非会員も応募可能です。

コンファレンスでの発表論文で内容の優れたものを『金融経済研究』に掲載することを意図しております。多数のご応募をお待ち申し上げますので、どうぞよろしく願いいた

します。

コンファレンス代表兼『金融経済研究』編集委員（投稿論文の送付先）

櫻川昌哉（慶応義塾大学）masaya822★gmail.com（★→@に変更）

塩路悦朗（一橋大学）shioji★econ.hit-u.ac.jp（★→@に変更）

村瀬英彰（学習院大学）hideaki.murase★gakushuin.ac.jp（★→@に変更）